

令和2年度「地方創生推進交付金等活用事業」評価結果

(令和3年9月)

○ 地方創生推進交付金等について

地方創生推進交付金等は、地方版総合戦略に位置づけられた、地方公共団体の自主的・主体的な取り組みで、先導的なものを支援する国の制度です。(補助率：事業費の1/2)

地方創生推進交付金等を活用する事業にあっては、ふさわしい具体的な重要業績評価指標(KPI)を設定し、PDCAサイクルによる成果を重視した事業を展開するとともに、事業年度毎に、外部有識者等による効果検証を行い、その結果について公表し、かつ、国へ報告することとされています。

現在、地方創生推進交付金 事業、地方創生拠点整備交付金 事業、合計 事業について、国の認定を受け交付金対象事業を実施しています。

地域再生計画の名称	事業概要	取組内容	KPI (令和2(2020)年度)		指標の達成度 (自己評価)	改革改善の方向性 及び課題・解決策
			目標値	実績等		
【交付金名：地方創生推進交付金】						
「全国いちごサミット」を核 とした儲かる農業推進プロ ジェクト (H30～R2年度対象)	国内初の取組となる全国のいちご主 要産地が一堂に会する「全国いちごサ ミット in 真岡」を開催し、これを契 機として、本市をはじめ栃木県や県内 全市町が連携した「いちご王国」づく りを更に深め、地域ブランド力の強 化、高付加価値や販売単価向上に向け た6次産業化、新たなビジネスモデル の構築、国内外の新たな販路拡大に向 けた農家所得向上の儲かる農業の仕組 みづくりにつなげ、地域経済の活性化 を図ることで、新たなしごと創出、若 い世代の移住・定住の促進、人口流出 の抑制につなげていく。	「全国いちごサミット」において は、新たなビジネスモデル構築、ビ ジネスマッチング、海外輸出に向け た販路拡大、農家所得向上等のため のビジネスサミットと、消費拡大や ブランド力向上等のための消費者向 けイベントサミットを開催する。 また、サミット開催機運を高めて いくため、関係機関や地域と行政が 一体となった「プレイベント」等い ちごに関するPRイベントを広く、 かつ継続的に実施し、主要産地との 交流を進め、サミット開催の裾野を 広げる活動を展開する。	いちご販売額		B	・2020年3月14日、15日に開催 予定であった「全国いちごサミットin もおか2020」は、新型コロナウイル スの感染拡大を受け、来場者、関係各 位の健康・安全面への影響を第一に考 え、延期となっている。 ・「儲かる農業の仕組みづくり」を推 進するため、新規就農者支援事業及び いちご生産施設整備支援事業等により 農業経営の安定化と所得向上を図っ た。
			8,529 百万円	7,866 百万円		
			認定新規就農者数			
			7人	9人		
			主要野菜（にら、トマト (ハウス)、なす(ハウ ス)）販売額			
			14.8 億円	11.9 億円		
			観光いちご園入場者数			
38千人	9千人					
事業継続 コロナ収束後のサミット開催に 向けて、感染リスク回避策や、十 分な対応策を検討し準備を進めて いく。						

地域再生計画の名称	事業概要	取組内容	KPI (令和2(2020)年度)		指標の達成度 (自己評価)	改革改善の方向性 及び課題・解決策	
			目標値	実績等			
【交付金名：地方創生拠点整備交付金】							
SLの走るまち拠点施設 SLキューロク館整備事業 (H29年度対象)	<p>SLキューロク館敷地内において、静態展示している人気のD51型SLを既存の9600型SLと並走させるための軌道を敷設することにより、「SLの走るまち」真岡の価値を高め、まちなか誘客の拠点としての機能を強化する。</p> <p>また、地方創生推進交付金で中心市街地に整備した「チャレンジショップ」や「まちかど美術館」と連携するとともに、自転車利用環境の整備等により周遊性を向上させることで、中心市街地への滞在時間を延ばし、まちなかの消費拡大につなげ、まちなかの賑わいを創出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・軌道整備及び舗装工事 D51型SLを動態保存するための軌道整備と舗装工事を実施した。 ・D51型SL動態整備 D51型SLが圧縮空気で自走できるよう整備した。 	観光拠点施設（観光物産館、SLキューロク館）売上高		A	<ul style="list-style-type: none"> ・D51形SLを動態整備し、本市の3大観光資源の一つであるSLを有効活用し、SL乗車体験、運転体験を実施した。 ・観光拠点施設の生産性（売上高）もSLキューロク館の入館者数とともに新型コロナウイルスの影響により減少している状況である。 	<p>事業完了</p> <p>今後も、観光拠点との連携を図りながら、誘客の強化と地域経済の活性化等につなげていく。</p>
			18,800千円	15,893千円			
			SLキューロク館入館者数				
			12.90万人	9.5万人			
			卸売・小売業の販売額				
			1,029億円	1,198億円			
<p>地場産業の生産性向上に資する真岡木綿会館及び観光物産館再整備事業</p> <p>(H30年度対象)</p>	<p>真岡駅から中心市街地の商店街への徒歩圏内の動線上に位置し、伝統産業の展示機能等を有する「真岡木綿会館」及び特産品等を販売する「観光物産館」に滞在・滞留できるオープンスペースを増築する。</p> <p>更に、観光客等の滞在時間の延伸と、民間美術館、SLキューロク館や中心商店街の回遊性を促進する商店街イベント等との連携を図り、観光消費額の増加を図ることに加え、商工会議所、商工会や中小事業者と特産品等を生かした新商品の開発や販売を進めながら、官民協働で中心市街地の商店街全体の稼働率及び客単価等を向上させ、地場の中小事業者等や観光業の所得向上につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・真岡木綿会館再整備工事 既存の真岡木綿会館に、木綿製品の販売スペース（ショップ）を増築した。 また、ショップに併設したウッドテラスを増築し、「もめん茶屋」や木綿会館の滞留スペースを整備した。 ・観光物産館再整備工事 既存の観光物産館に、ウッドデッキ（カフェスペース）を増築した。 また、若い世代が参集しやすいカフェや景観整備を図り、中心市街地の賑わいを創出する。 	真岡木綿会館売上額		B	<ul style="list-style-type: none"> ・真岡木綿会館再整備工事 既存の真岡木綿会館に、ショップを増築し、これまでの見学・機織り体験に、新たに販売機能を加えた施設になり、真岡木綿に親しみやすい環境やウッドテラスを増築し、来館者や観光客が集い憩える空間を提供できる施設になった。これにより、中心市街地へ賑わいの創出に努め活性化を図ることができた。 	<p>事業完了</p> <p>完成した両施設を有効活用し、交流人口の増加に努めていく。また、DCを契機とし、磨き上げた観光資源を積極的にPRすることで誘客を図るとともに本市の知名度向上に努めていく。さらに、中心市街地と観光施設等を結ぶ回遊ルートを作成すること、また、客一人当たりの観光消費額の増加を目指す。</p>
			11,433千円	10,273千円			
			観光物産館売上額				
			12,680千円	6,807千円			
			真岡木綿会館及び観光物産館入館者数				
			73,799人	31,691人			

<p>まちの賑わい創出に資する観光起点再整備事業</p> <p>(R1年度対象)</p>	<p>更なるまちの賑わいの創出に向け、回遊による観光まちづくりの推進強化として、観光起点である真岡駅舎3階の情報センターを利活用（改修）し、SL鉄道駅という強みを活かしたテーマ性と、いちご生産量日本一の特性を活かした（仮称）いちごSLワールドを整備する。この施設整備により、真岡鐵道の利用促進と、観光起点である真岡駅における滞在時間の延伸、それに伴う観光消費額の増加、また、中心市街地への回遊者増加による商店街の観光消費額の増加と所得の拡大を図るとともに、所得増加等による新商品開発や新たなしごとの創出、雇用の増加等につなげていく仕組みを構築する。</p>	<p>・観光拠点再整備工事 旧情報センターを、SLやいちごを模した子ども向け遊具エリア、飲食エリア、赤ちゃんの駅に改修した。</p>	SLキューロク館 売上額		A	<p>真岡駅子ども広場を整備し、真岡駅周辺の活性化、親子のふれあいの創出、子育て環境の充実を図った。コロナ対策にて休館などもあったが、市内外から、14,243人の利用者があり、周辺施設への集客へと繋げることができた。</p>	<p>事業完了 真岡駅子ども広場に来場した方へ、今後も、中心市街地や周辺施設への案内の強化を図りたい。</p>
			8,075 千円	9,086 千円			
			真岡鐵道乗降者数				
			948,528 人	681,253 人			
			観光物産館 売上額				
12,730 千円	6,807 千円						